

高丸山

高丸山（1,438m）には手付かずのブナ林保全区があり、周囲のスギの人工林とは対照をなしており、ハイキングに最適です。

地域の森林保全

第二次世界大戦中、政府は高丸山のブナの木を戦闘機のプロペラを作るために伐採するように命じました。ブナ林の保有する水が地域農業の持続を可能にしているので地域住民は反対し、ブナの木々は救われました。1977 年、高丸山の保全と地域発展の責任は八重地の住民から上勝町へと移されました。この自然資源を未来に残すために 99 年間の委託契約が結ばれ、1977 年にこの森は徳島県初の自然環境保全地域に指定されました。今日では、地域住民は毎年五月五日に高丸山に登り、東照神社から神輿を担いで森の中を巡行することで、森への畏敬の念を表しています。

手付かずの森のハイキング

この登山口には車でアクセスでき、登山口から山頂までは約一時間かかります。登って行くときに見られる景色は目を見張るばかりで、登山道はまず中腹のブナ林までなだらかな坂道を進み、そこから山頂まで上に向かって続きます。このハイキングでは、中には高さ 30 メートルに達するものもある野生のブナの木々はもちろん、さまざまな種類の野生植物や野鳥も間近に見ることができます。